

『 明るく元気な高洲小学校を目指して 』

藤枝市立高洲小学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事		プログラム	職員研修
4月	○1年生を迎える週間（全学年） 常時活動 ・あいさつ活動 ・JRC活動 ・ペア活動 (1・6年)	挑戦のステージ	各学級において、ステージごと、人間関係づくりプログラムの活用をする。	職員会議でピア・サポートとは何かを確認する。
5月	○運動会（全学年） ・かがやき活動		運動会に向けて、友達と力を合わせる。競技の練習を通して、友達によさに気づくための活動など	
6月		高めるステージ		【随時】 ピア・サポートは、教育活動全体に関わり合っている。 子どもたちがよりよく学校生活を送れるように、ピア・サポートを意識するようにしたい。
7月	日々の授業実践の中で 「なっとくするまでとことんやる子」を研修の重点に据えて、友達と関わり合う中で、疑問を解決しようという意識を授業の中で育てていく。		友達によさと、自分のよさを出し合い、互いに高め合っていこうとする気持ち、態度を育てる活動など	
8月				
9月		磨くステージ		【振り返り】 年度末には、教師自身、ピア・サポートについて振り返りの機会をつくり、次年度に生かす。
10月			高めてきたことをさらに努力し、自分のよさを磨いていたり、友達の磨いてきたことを認める態度を育てる活動 など	
11月	○校内音楽集会（全学年） ペア読書	成長・感謝のステージ		
12月	○園児との交流会（1年）			
1月		成長・感謝のステージ		
2月	○6年生ありがとうの会（全学年） ○愛校活動（6年）		6年生、学級の友達、地域の方への感謝の気持ちを言葉や態度で表す活動など	
3月	○卒業式（5・6年）			

1 本校のピア・サポート

本校では、長年 JRC の活動に力を入れており、毎週金曜日に VS(ボランティア・サービス)活動が設定されている。そのため、学校をよりよくするためにどうすればよいのか「気づき考え実行する」という文化が根付いている。また、本校の児童における課題の一つに、昨年度から「自分のよさを言うことができない」という点が挙げられていた。そのため、本年度も児童が自他のよさを認め合える人間関係をつくることを目指し、ピア・サポートに関係する活動を行った。

2 特徴的な活動

(1) 委員会活動を通して (提言 6)

児童会であいさつ運動に取り組んでいる。この活動は、人の心と心をつなぎ、安心して学校生活を送るためにも大切な活動である。本年度の学校生活アンケートでは、「あいさつを進んでいる」という回答が増加し、地域や学校の人との関わりの一助になったと考える。さらに、本年度からふれあい委員会が発足した。「ふれあい新聞」などの取り組みで、各学年のことを学校全体に広め、異学年の児童や教員にも興味を持ち、関わるきっかけになっている様子が見られた。

(2) ペアでの交流 (提言 6、7)

本年度は、ペアでの活動を、感染症対策を行いながら数回実施することができた。昼休みの活動では、上級生が下級生のことを思いやり、下級生に困ったことがあったら、話を聞いてあげながら遊ぶ姿が見られた。また、同学年の児童と接することが苦手な児童も、ペア読書では、下級生の様子をうかがいながら、進んで読み聞かせをする様子も見られた。さらに、音楽会では、ペア学年のみ体育館に入れ、生で鑑賞をし合うことができた。終了後に送り合ったメッセージには、互いの演奏に対するがんばりを認めるものが多く見られた。



2、5年生のペア読書

(5) 組織の連携を活かした取り組み (提言 1、2、6、7)

昨年度から始まった「かがやきみつけ」の活動を、本年度も継続して行っている。この活動は友達のがんばりを見つけて、そのかがやきを紹介し合い、さらにその活動の輪を学校全体に広めていこうという目的で実施している。月末を「全校かがやきデー」として、各クラスから集められたかがやきカードを、全校児童が最も目にする昇降口の掲示板に貼ったり、校内放送で紹介したりしている。この継続的な活動を支えているのが、各クラス内でのかがやきみつけの取組である。全クラスに「かがやきコーナー」を設置する場所を設け、子供たち同士がお互いのがんばりを認め合うことができている。これらの掲示は、学校組織の「特活指導部」「道徳指導部」との連携もあり、教職員側からも子供たちのピア・サポートの活動を客観的にみとることができる場ともなっている。



昇降口のかがやきコーナー

3 本年度の成果と来年度に向けて

様々な活動を通し、児童が周りにいる友達に目を向けることや、周りからの言葉で自分のがんばりを実感する機会が増えた。しかし、本年度の教育活動アンケートから、「誰かに困ったことを相談できる」という項目の割合が低いことが課題であることが確認できた。来年度は、周りの友達に目を向けることができるようになったことをレベルアップさせ、困っている人を見つけ進んで話を聞いたり、助けたりといった行動に移すことができるように指導をしていきたい。